

- 安全な生産資材の導入、放射性物質による汚染の軽減
- 野生の山菜やきのこの採取に関する情報提供

具体的な取組

1. 安全なきのこ原木の確保
(きのこ原木・ほだ木の購入支援、きのこ原木の需給のマッチング)
2. きのこと原木・ほだ木の除染や簡易ハウス等の導入
3. ガイドラインに沿った栽培管理の普及・指導
4. 放射性物質の汚染を低減させる栽培技術の普及
5. ホームページ、パンフレットによる情報発信、巡回指導



きのこ原木等の当面の指標値【参考】

- きのこ原木や菌床などは全国に流通する可能性。
- 安全なきのこを供給するため、きのこ原木・菌床などの安全基準として放射性セシウム濃度の当面の指標値を設定。

当面の指標値（2012.4月～）	
きのこ原木及びほだ木	50 Bq/kg
菌床用培地及び菌床	200 Bq/kg

ほだ木：きのこ原木にきのこの菌を植えたもの

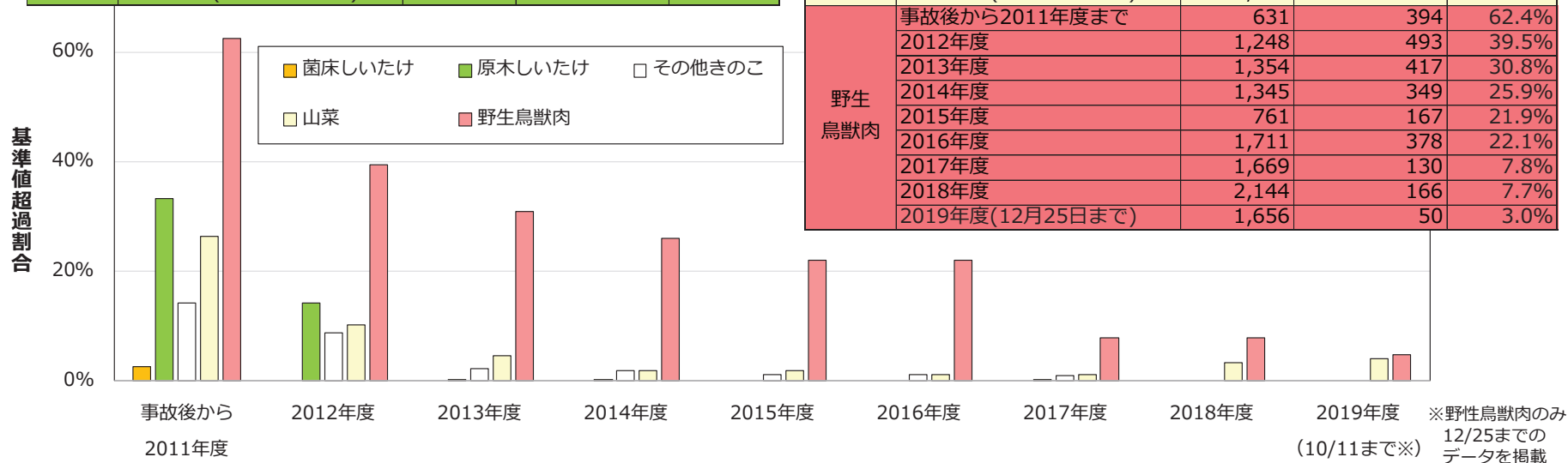
菌床：おが粉や栄養材等を混合した培地にきのこの菌を植えたもの

きのこ・
山菜

きのこ類、山菜、野生鳥獣肉

	検査期間	検査点数	基準値超過点数	超過割合
菌床 しいたけ	事故後から2011年度まで	358	9	2.5%
	2012年度	868	0	0%
	2013年度	869	0	0%
	2014年度	830	0	0%
	2015年度	754	0	0%
	2016年度	617	0	0%
	2017年度	494	0	0%
	2018年度	434	0	0%
	2019年度(10月11日まで)	49	0	0%
	原木 しいたけ	事故後から2011年度まで	1,093	364
2012年度		1,513	213	14.1%
2013年度		1,298	2	0.2%
2014年度		1,996	3	0.2%
2015年度		2,139	0	0%
2016年度		2,362	0	0%
2017年度		2,264	4	0.2%
2018年度		1,938	0	0.0%
2019年度(10月11日まで)		502	0	0.0%

	検査期間	検査点数	基準値超過点数	超過割合
その他 きのこ	事故後から2011年度まで	1,881	268	14.2%
	2012年度	2,257	195	8.6%
	2013年度	2,230	50	2.2%
	2014年度	2,169	38	1.8%
	2015年度	2,117	24	1.1%
	2016年度	2,084	23	1.1%
	2017年度	1,890	16	0.8%
	2018年度	2,021	28	1.4%
	2019年度(10月11日まで)	226	1	0.4%
	山菜	事故後から2011年度まで	524	138
2012年度		1,950	197	10.1%
2013年度		3,184	142	4.5%
2014年度		3,562	62	1.7%
2015年度		3,423	63	1.8%
2016年度		4,178	46	1.1%
2017年度		3,237	34	1.1%
2018年度		3,178	105	3.3%
2019年度(10月11日まで)		1,595	61	3.8%
野生 鳥獣肉		事故後から2011年度まで	631	394
	2012年度	1,248	493	39.5%
	2013年度	1,354	417	30.8%
	2014年度	1,345	349	25.9%
	2015年度	761	167	21.9%
	2016年度	1,711	378	22.1%
	2017年度	1,669	130	7.8%
	2018年度	2,144	166	7.7%
	2019年度(12月25日まで)	1,656	50	3.0%



集計対象：食品中の放射性物質に関する「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」において、検査対象自治体となっている17都県
農産物に含まれる放射性セシウム濃度の検査結果（農林水産省）、食品中の放射性物質の検査結果について（厚生労働省）より作成